買物は投票だ。地産地消を。

NEWS！
2022. 1月号

使い捨ての生活からの脱却で持続可能な地球環境を次世代に

［発行］NPO 法人グリーンコンシューマー大阪ネットワーク
●〒565-0842 吹田市千里山東 1-14-26 ほぼエコcafé＆Gallery NAZ（ナーズ）内
●年会費 1 口 2000 円（個人 1 口以上、学生半口以上、団体 3 口以上、賛助会員（会社）5 口以上）
●郵便振替 00920-8-154437 ●TEL06-7222-8005●E-mail greencon@g2.xrea.com ●http://www.greencon@g2.xrea.com

公害の原点

水俣 が 現代に問いかけること

高度経済成長の時代に激甚型の水俣病が発症した。猫実験によって原因企業チッソは工場排水が原因であることを知りながら、有害汚水を流し続けた。行政も工場排水規制や魚介類の摂取制限などを行わないばかりか、チッソと一体となって有機水銀原因説の否定に躍起になった。

4 大公害事件の一つとされる水俣病は社会科の教科書にも記載され、当時は人の命や健康がそんなに軽んじられたのかという歴史になっている。

昨年から今年にかけて、そんな水俣病を描いた 2 つの映画が公開された。ひとつはジョニー・デップが主演したハリウッド映画「MINAMATA」、そしてもう一つは上映時間 6 時間超が話題にもなった原一男監督のドキュメンタリー「水俣曼荼羅」である。

「MINAMATA」は、1971 年から 3 年間アイリーンと水俣に住んで写真集を発行し、水俣病の問題を世界に発信したユージン・スミスをジョニー・デップが演じた。ユージンが 1972 年にチッソ社員から暴行を受け、脊椎骨折、片目失明の重傷を負う場面なども描かれている。

「水俣曼荼羅」では、裁判をいくつも起こし勝利を重ねても、国が古い病像論に固執して水俣病の認定を拒み、今も多くの患者さんが救済されていないこと、それでも恋愛や結婚など患者さんが懸命に暮らしているさまが描かれている。

そう、公式発見から 66 年を迎える水俣病は歴史上の問題ではなく、今も未解決、終わっていないのだ。水俣には、日本の公害、環境問題が抱える課題、教訓が厳然と存在している。

写真集「MINAMATA」をユージンとともに世に出したアイリーンに、思いのたけを語ってもらう場を設けました。（チラシ参照）　コロナ禍が収まり、無事開催できることを願っています。